

ISO メルマガ(130924)

ISO9001・ISO14001 の改正状況(10) 箇条 3(定義)

ISO9001・ISO14001 の改正は、これまで紹介してきましたとおり、MSS 共通要求事項を踏まえて行われていますが、箇条 3 に定義されているものは次の通りです。

ISO9001:CD		ISO14001CD	
3.01	組織	3.01	組織
3.02	利害関係者	3.02	利害関係者(推奨用語) ステークホルダー(許容用語)
3.03	要求事項	3.03	要求事項
		<i>3.04</i>	<i>環境</i>
		<i>3.05</i>	<i>環境側面</i>
		<i>3.06</i>	<i>著しい環境側面</i>
		<i>3.07</i>	<i>環境影響</i>
		<i>3.08</i>	<i>環境の状況</i>
3.04	マネジメントシステム	3.09	マネジメントシステム
		<i>3.10</i>	<i>環境マネジメントシステム</i>
3.05	トップマネジメント	3.11	トップマネジメント
3.06	有効性	3.12	有効性
3.07	方針	3.13	方針
		<i>3.14</i>	<i>環境方針</i>
3.08	目的	3.15	目的
3.09	リスク	3.16	リスク
3.10	力量	3.10	力量
3.11	文書化した情報	3.18	文書化された情報
3.12	プロセス	3.19	プロセス
3.13	パフォーマンス	3.20	パフォーマンス
		<i>3.21A</i>	<i>環境パフォーマンス</i>
		<i>3.21B</i>	<i>環境パフォーマンス</i>
		<i>3.22</i>	<i>指標</i>
		<i>3.23</i>	<i>鍵となるパフォーマンス指標</i>
3.14	外部委託する(動詞)	3.24	外部委託する(動詞)
3.15	監視	3.25	監視
3.16	測定	3.26	測定
3.17	監査	3.27	監査
3.18	適合	3.28	適合
3.19	不適合	3.29	不適合
3.20	修正	3.30	修正
3.21	是正処置	3.31	是正処置
3.22	継続的改善	3.32	継続的改善
		<i>3.33</i>	<i>汚染の予防</i>
		<i>3.34A</i>	<i>バリューチェーン</i>
		<i>3.34B</i>	<i>サプライチェーン</i>
		<i>3.34C</i>	<i>ライフサイクル</i>

ISO9001 の太字は 2008 年版の定義にない用語。現時点で MSS 共通要求事項の定義と同一。

ISO14001 の太字は 2004 年版の定義にない用語。イタリック体(斜字)は MSS 共通要求事項の定義にない用語。

ISO14001 のイタリック体(斜字)で下線があるものは、2004 年版の定義にも MSS 共通要求事項の定義にもない用語。

このように、ISO9001CD では QMS 固有の定義は現時点で MSS 共通要求事項の定義をそのまま掲載されていますが、ISO9000(品質マネジメントシステム—用語及び基礎)の改定作業が同時に進行していますので、箇条 3 の定義は単に「この規格で用いる主な用語及び定義は、ISO9001 による」と記載されることが予想されます。

また、ISO14001CD では EMS 固有の定義が追加されていますが、A,B,C が付いている用語については CD2(発行予想)で明確にされるものと思われます。

(以下、訳はこの記事の執筆者によるもので、公式のものではありません)

ISO9001CD で気になる用語は次のものでしょうか。

3.08 目的

達成する結果

注記 1 目的は、戦略的、戦術的、または運用的があり得る。

注記 2 目的は、様々な領域に関連し得るものであり(例えば、財務、安全衛生、環境の到達点(goal)、様々な階層で適用できる(例えば、戦略的レベル、組織全体、プロジェクト単位、製品ごと、プロセス(3.12)ごと)。

注記 3 目的は、例えば、意図する成果、目的(purpose)、運用基準など、別の形で表現することができ。また、品質目標という表現の仕方もある。又は、同じような意味を持つ別の用語(例、狙い(aim)、到達点(goal)、目標(target))で表すこともできる。

注記 4 品質マネジメントシステム規格の場合、組織は、特定の結果を達成するため、品質方針と整合のとれる品質目的を設定する。

(JSA 注：この文書はマネジメントシステムの中での統一した用語の使用を推奨していることから、この文書内における objective には、一貫して“目的”という訳語をあてている。他方、既存の JIS では、日本語と英語の語彙の違い、各マネジメントシステムにおける領域固有の背景及び規格内の文脈との関係などの理由から、objective に対して分野固有ごとに異なる用語が使用され、広く一般化しているという現状もある。

例 JIS Q 9001 では、“(品質)目標”、JIS Q 14001 などでは“目的”がそれぞれ使用されている。このため、各分野固有の JIS における objective の訳語については、分野固有の背景、文脈などを踏まえて、“目的”又は“目標”のいずれかを選択することが望ましい。また、その選択の背景については、JIS の解説に記載し、規格利用者に説明することが望ましい。)

3.09 リスク

不確かさの影響

注記 1 影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向に乖離することをいう。

注記 2 不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報、理解又は知識に、たとえ部分的にでも不備がある状態をいう。

注記 3 リスクは、起こり得る事象(ISO ガイド 73 の 3.5.1.3)及び結果(ISO ガイド 73 の 3.6.1.3)、又はこれらの組み合わせについて述べることによって、その特徴を示すことが多い。

注記 4 リスクは、ある事象(その周辺状況の変化を含む。)の結果とその発生の起こりやすさ(ISO ガイド 73 の 3.6.1.1)との組み合わせとして表現されることが多い。

3.13 パフォーマンス

測定可能な結果。

注記 1 パフォーマンスは、定量的または定性的な所見のいずれかにも関連し得る。

注記2 パフォーマンスは、活動、プロセス(3.12)、製品(サービスを含む)、システム、又は組織(3.01)の運営管理に関連し得る。

ISO14001CDで気になる用語は次のものでしょうか。

<p>3.08 環境の状況 組織(3.01)の活動、製品及びサービスに、適応を求めて影響を与え得る、長期的な環境の変化</p>
<p>3.19 プロセス (process) インプットをアウトプットに変換する、相互に関連する又は相互に作用する一連の活動。 注記1 プロセスは文書化でき、又はできない。</p>
<p>3.22 指標 運用、管理又は状況の状態、又は地位の測定可能な表現。</p>
<p>3.23 鍵となるパフォーマンス指標(KPI) ある側面に対して組織によって重要と思われ、目立たせて注意を与えるパフォーマンスの指標。 [ISO/FDIS14031] 注記1 鍵となるパフォーマンスは、操業パフォーマンス(OPI)、マネジメントパフォーマンス(MPI)、環境パフォーマンス(EPI)に対して選んでもよい。</p>
<p>3.34A バリューチェーン 製品又はサービスの形式で価値を提供か受け取る一連の活動又は関係者の全体。 注記1 価値を提供する関係者には、供給業者、受託労働者、購買業者、その他が含まれる。 注記2 価値を受け取る関係者には、顧客、消費者、取引先、会員、その他の利用者が含まれる。 [ISO26000:2010、2.25]</p>
<p>3.34B サプライチェーン 組織に対して製品又はサービスを提供する一連の関係者。 注記1 サプライチェーンという用語は、バリューチェーンと同義であると理解される場合がある。しかし、この国際規格の目的においては上記の定義に従って使用される。[ISO26000:2010、2.22]</p>
<p>3.34C ライフサイクル 連続的であつ、相互に関係する製品システムの段階群、すなわち、原材料の取得、又は天然資源の産出から最終処分までを含むもの。[ISO14044:2006、3.1]</p>

これらの説明については、今後の各箇条説明の中で触れることにします。

以上

追記:ISO9001 及び ISO14001 の次期改正についてのこれまでのメルマガの記事は次に掲載されています。

・http://kanagawa-touroku.org/p/9000/?page_id=880